

みえ高校生県議会 参加校及び質問項目一覧 (令和8年8月20日開催)

学校名 質問項目	質問概要	答弁の概要	答弁者
相可高等学校 「地域の魅力 発信をするた めには」	県外で行われるイベントに参加するなかで、本校がある多気町にはたくさんの魅力があるにも関わらず、多気町の名が全国的にほとんど知られていないと感じた。 そのような中、本校では地域の歴史や文化を取り入れたキャラクター「たっきー」を考案し、町のふるさと納税のお礼の封筒や地域応援商品券に活用されるなど町と連携して取り組むとともに、空き家の有効活用を進めるなど地域の魅力をより多くの人に知ってもらうための取組を行っている。 人口減少対策は、少子化対策に加えて都市部からの移住促進が重要であることから、地域の魅力を全国に発信する取組を強化し、観光や宿泊体験、特産品を使ったふるさと納税等で地域に興味を持ってもらうことで、最終的には移住につなげ人口減少を食い止めることが大切である。 <u>「たっきー」のように親しみやすいキャラクターを活用した取組を通じて、地域の魅力を広く伝えることは重要であると考えているが、県内の市町、特に町の魅力を広めるために県としてどのような取組ができるか伺いたい。</u>	県では移住促進のため、市町と連携して、都市部での移住相談会や移住フェアの開催や、ポータルサイトを活用した情報発信等を行っている。また、市町が実施する移住体験ツアーへの補助や、空き家リフォーム費用の支援等を行うことで、移住のきっかけとなる「二地域居住」を進めるほか、今年度は新たに、若者が気軽に相談ができるAIを活用した相談の仕組みや、よりきめ細やかな相談対応を可能とする移住相談システムの導入を進めていく。 ご提案いただいた、キャラクターを使った特産品等の地域の魅力発信は、その地域を知ってもらうきっかけとなり、観光等で実際に足を運び、実際に住みたいという気持ちが生まれることで、移住に繋がることも期待できると考える。 県議会として、情報発信の重要性を改めて認識し、地域の魅力を多くの方に知ってもらう効果的な手法等について、これまで以上に議論を深めていく。	総務地域連携交通常任委員長

学校名 質問項目	質問概要	答弁の概要	答弁者
暁高等学校 「県南部の活性化について」	南部地域には、豊富な観光資源など、多くの魅力があるが、運転免許を持たない高校生は、公共交通機関だけでは行くことが困難な場所が多くある。 南部地域では、人口減少や高齢化が進み、公共交通の維持が困難となっていることから、日常生活に必要な移動手段の確保が大きな課題である。そのため、南部地域において、地域の需要に応じて運行するデマンド交通の導入・拡充を推進すべきと考える。デマンド交通の導入には、利便性や採算性、利用者の心理的ハードルなどのさまざまな課題があるが、利用者が予約することで効率的に運行できることから、利用者が少ない地域でも運用しやすく、高齢者のみならず幅広い方々の移動手段の確保につながる。日常生活の利便性が高まり、安心して暮らし続けられる地域づくりが期待できるほか、移動しやすい環境が整うことは、若者の地域定着やUターンの促進、観光客の周遊性向上にもつながり、南部地域の活性化にも大きく貢献すると考える。南部地域の実情に合わせ、<u>市町の枠を超えたデマンド交通の導入・拡充を、県として積極的に推進していくべきではないか。県としてどのように支援していくのか伺いたい。</u>	県では、市町がデマンド交通等を導入するにあたり、運行形態などを一緒に考えたり、導入経費への補助を行っている。また、今年度は、名張市と紀宝町において、デマンド交通よりさらに自由度が高いタクシーの運賃割引や、タクシーの配車に時間がかかる場合には公共ライドシェアが代わりに配車される仕組みの実証実験を行う。紀宝町においては、県境を越えた和歌山県での買い物需要も見込まれることから、これらの施設を目的地とできるよう調整している。 引き続き、地域の実情に応じたデマンド交通等の導入が進むよう、市町を支援していくとともに、隣接市町への乗り入れ等、広域的な展開を行う場合には、必要に応じて市町間の調整を行うのが県の役割である。今年度、実証実験を行うライドシェアについては、今後、県内他地域でも展開が図られる中で、市町の枠を超えた導入の検討が期待される。市町の枠を超えたデマンド交通や公共ライドシェア等の動きがあれば、しっかり支援を行っていく必要がある。県議会としても、南部地域に限らず、地域の実情に合った移動手段を確保、充実させていくことは極めて重要であると認識しており、市町や事業者等に対し、どのような支援が効果的であるか、これまで以上に議論を進めていきたい。	総務地域連携交通常任委員長